









(II) 農學博士 佐藤 寛次

之を我が日本の平均耕作反別に町四畝(一、五英反)の農家に比較するのに、一方の價格二百五十圓としても(日本の稻田とし

建物五百圓、農具百五十圓、計三千百五十圓と殆ど相異なる所

は、ある)一町にて二千五百圓の所

十圓としても(日本の稻田とし

ては内端の計算山口縣の如きは二十年前にも一反一千二百圓の所

に於て大體五百圓の所

(III) 農學博士 佐藤 寛次

高い農場の自作又は小作の方

面に付きて之を見るに、自作は小作よりも少ないものである。

これは舊國又は極めて

新しき國に於ける感度である。日本に於ては、小作農が多めであるが、多くは少ないのである。

今統計上に付きて見るに明である。

△爲替相場に於て大體五百圓の所

に於て大體五百圓の所







